

東西の「駅ツバメ」調査から見てくるもの

都市鳥研究会

昨年自由集会で、都市鳥の生息環境としての「駅」に着目してはどうかという意見が出された。「駅」は代表的な人工的・都市的な環境であり、多くの人々が集中・通過する場所である。ムクドリ、ハクセキレイ、スズメ等は駅周辺に集団ねぐらを作るなど、駅及びその周辺の環境を積極的に利用する都市鳥は多い。

ツバメ *Hirundo rustica* やツバメ類は「駅」をよく利用する都市鳥で、その生態は人との密接な関係を持っている。そこでその調査・研究を「駅ツバメ」と銘打って、今年自由集会のテーマとした。駅のツバメの営巣を調査する事は以下に示すように多くの利点があると考えられる。

(1) 人目につきやすく市民参加型で調査データが得やすい。(2) 駅の範囲が限定されるので、「営巣している」だけでなく、「営巣していない」という判断がしやすい。(3) 広範囲に散らばっており、一路線に着目すれば都心から郊外までのライントランセクトと捉えることができ、広域の環境傾度との関連が解析しやすい。(4) 乗降者数等の定量的なデータが容易に入手可能である。

このような利点を踏まえ、2012年に関西の2府4県、2013年に関東1都6県において大規模な市民参加型調査が実施され、東西合わせて3,000以上の鉄道駅のツバメ類の営巣状況が明らかにされた。また、JR中央線の東京～高尾間の全駅では、駅だけでなく周辺300mの範囲も含めた営巣状況が2013年に調査された。これらの調査により、ツバメの営巣に関する状況だけでなく、ツバメと人との軋轢、関係性の変化などもわかってきている。また、鉄道駅ではないが、道の駅では、人とツバメの共存のための取組の試行が進められている。

本自由集会では、駅とツバメに着目し、ツバメの営巣に関する生態をどう解明していくか、また人とツバメがどう共存していくかについて議論したい。

【話題提供】

進行 柴田佳秀¹

1. 関西の駅のツバメの巣調査 2012 (和田岳^{1・2})
2. 関東鉄道駅のツバメの巣ウォッチング 2013 (渡辺仁^{1・3}・徳江義宏³)
3. JR中央線駅(東京駅～高尾駅)周辺のツバメの営巣状況 (川内博^{1・4})
4. 道の駅におけるツバメの営巣と保全 (神山和夫^{1・5})
5. 討論

1. 都市鳥研究会、2. 大阪市立自然史博物館、3. 日本工営(株)、4. 日本野鳥の会東京、
5. バードリサーチ